

令和4年9月20日（火曜日）

予算決算委員会 厚生分科会

第3委員会室

出席委員

有馬剛朗、石見和之、山崎陽介、竹尾浩司、
竹中隆一、杉本博昭、谷川真由美、大西陽介、
妻鹿幸二

【厚生委員会（健康福祉局）の審査】

再開

11時15分

健康福祉局

11時15分

送付議案説明

- ・議案第77号 令和3年度姫路市一般会計決算認定について
- ・議案第81号 令和3年度姫路市介護保険事業特別会計決算認定について
- ・議案第88号 令和4年度姫路市一般会計補正予算（第4回）
- ・議案第89号 令和4年度姫路市介護保険事業特別会計補正予算（第1回）

質疑

11時44分

（質問）

特定不妊治療、不育症については、歳入面では特定不妊治療助成事業費補助金が約1億3,507万円、不育症治療支援事業費補助金が6万9,000円であるのに対し、歳出面では特定不妊・不育症治療助成事業費として合算して約2億7,080万円を支出している。

このうち、不育症には幾らかかっているのか。当該事業費の内訳を説明してもらいたい。

（答弁）

令和3年度は、特定不妊治療に係る助成に2億7,015万8,216円、不育症治療に係る助成に63万4,772円支出している。

（質問）

不育症は医師の診断がなければ本人には分からないが、医師の診断がなければ、助成金の申請ができないものと考えてよいのか。

（答弁）

そうである。医師の診断が必要である。

（要望）

医師が不育症であることを診断せず、入院や点滴で済ませることも多い。不育症の治療について助成金の申請ができることを病院に十分周知し、患者の支援に取り組んでもらいたい。

（質問）

災害時要援護者避難支援事業について、非協力的な校区があったと思うが、当該校区の協力は得られているのか。

（答弁）

現在も協力を得られていない。

（質問）

災害があつて、自主避難場所等を開設する際は、市から自治会長や民生委員に協力要請があり、それに応じているが、当該事業に協力しなくとも災害対応ができているのであれば、ほかの地域も協力しなくてもよいと考えてしまう。

当該事業を開始して10年近くたつのではないのか。

（答弁）

平成24年度から開始した事業であるため、10年近くたっている。不定期ではあるが、当該校区を訪れ協議しているが、なかなか協力してもらえていない。

（質問）

当該校区の連合自治会長は事業開始当時から同じであるのか。

（答弁）

現在は変わっている。

（質問）

連合自治会長が変わっても非協力的であるのか。

（答弁）

連合自治会長が変わったことは認識しているが、まだ交渉に行っていない。

（要望）

当該事業に協力しなくてもよいのであれば、協力している他の連合自治会長の納得を得られない。地域の善意で支えられている事業であるにもかかわらず、1校区だけ協力していないという状況が10年も続いているのであれば、もっと真剣に取り組んでもらいたい。

（質問）

当該連合自治会長が変わったのはいつなのか。

（答弁）

令和4年度ということは認識している。

(質問)

他の事業の補助金申請なども新しい連合自治会長が行っているのではないのか。もっとしっかり対応すべきである。以前に厚生委員会で指摘した際、局長が赴いて協議すると言っていたのではないのか。

(答弁)

当該事業について他都市でうまく対応できている事例がないか調べたいとは答弁した。

(要望)

赴いて協議してもらいたい。

(質問)

民生委員の活動費用や消防団員の報酬は、単価により算定して地方交付税措置されているものであるが、消防団員に報酬が直接支払われていない事例があり、新聞報道がなされたことを受け、本市では団員に報酬を直接支払うこととした。また、その報酬についても、かつては1万円に届かないものであったが、現在は国の交付税単価どおりとなっている。

民生委員の活動費用は1人当たり年額10万円近くになっていると思われるが、民生委員本人ではなく、協議会等に振り込まれており、地域によって民生委員本人の受け取る金額はまちまちである。一旦、民生委員に直接振り込んだ上で、民生委員が協議会等に必要な金額を振り込んだり、協議会等の活動に公益性が高いのであれば行政が必要経費を補助する措置などが必要なのではないのか。民生委員一人一人の活動に支えられているのであるから、時代の変化に合わせて、活動費用の支払い方を見直す必要があるのではないのか。

市民局の自治会行政事務委託料も各町に行き渡るように取り組んでいる。民生委員の活動費用についても徹底してはどうか。

(答弁)

民生委員の活動費用は、交付税措置されている6万200円を含め、1人当たり年額11万8,000円を支給している。その活動費用は、姫路市民生委員児童委員連合会に振り込み、同連合会や民生委員児童委員協議会などの会費の引き去りを行って、民生委員が受け取る仕組みとなっている。指摘を踏まえ、振込について検討していきたい。

(要望)

民生委員の成り手が不足している。消防団員も同様の状況である中、報酬がしっかり受け取れるようになっており、民生委員にも必要な活動費用がしっかり行き渡るようにしてもらいたい。そのために協議会等の活動ができなくなってしまうのであれば、対応すればよいと思う。不透明で公平性が担保されていないのは問題である。

消防団員のような仕組みを目指してよく検討してもらいたい。

休憩

11時59分

再開

12時56分

(質問)

動物愛護推進事業費は飼い主のない猫の不妊手術に関する費用だと思うが、ボランティアから枠の拡充と手続の簡略化についての要望を聞く。どのように考えているのか。

(答弁)

手続については、令和4年度が見直しの時期であるため、状況を確認の上、検討したい。内容については現時点で答えられる状況ではない。

(質問)

動物管理センターから動物愛護センターに名称を変更したほうがよいのではないかと指摘があるがどうか。

(答弁)

令和4年第2回定例会の厚生委員会において説明したように、保健所の大規模改修に合わせ、保健所内に(仮称)姫路市動物保健センターの整備を検討している。

(質問)

ホームレスの実態調査を受託しているが、本市の実態について説明してもらいたい。ピーク時よりホームレスは少なくなったと思うがどうか。

(答弁)

令和3年度の実態調査によれば、本市には10人のホームレスがいる。平成29年度は13人であり、令和元年度に減少したものの、令和2年度に10人に増えて横ばいである。

(質問)

姫路駅前に数人ホームレスを見かける。市民から相

談を受け、姫路駅周辺整備課に問い合わせたところ、本人が生活保護の受給を拒否するなど対応に苦慮しているとのことであった。

これから寒くなる時期であるし、新型コロナウイルス感染症罹患の懸念もある。10人であれば、一人一人に対応可能であると思うが、施設への入所や生活保護受給など具体的な支援策を提案して対応したことはあるのか。

(答弁)

実態調査は実際にホームレスに会って確認しているわけではない。人が住んでいるような痕跡があれば人数に入れており、10人全員について実態を把握しているわけではない。ただし、実際にその場にいることを確認できたホームレスに対しては、後日面談を行う中で、生活保護や生活困窮者の支援制度を案内している。

(要望)

姫路駅前ですら少なくとも2人見かける。実態調査を生かして支援につなげてもらいたい。

(質問)

コロナ禍で全国的に自殺者が増えているが、自殺対策に関する経費はどの費目に計上されているのか。また、本市の実態と対応状況について説明してもらいたい。

(答弁)

保健所総務費中、精神保健福祉業務費に計上している。このうち、自殺対策に係る経費は256万8,794円である。

本市では、コロナ禍で多いとされる20代、30代の女性の自殺者が顕著に見られるというわけではないが、自殺者の総数が減少傾向にある中、相対的に若年者の減少数が少ないため、自殺対策を強化して取り組んでいる。

教育委員会と連携した連絡会議を設置するほか、各学校での思春期出前授業にSOSの出し方を盛り込むとともに自殺予防リーフレットを配付している。

(質問)

兵庫県内の市町の中では姫路市の自殺率は高いと思うが、どのように分析しているのか。

(答弁)

令和3年度の10万人当たりの自殺者数である自殺

死亡率は、国が16.1、兵庫県が16.4、姫路市が16.1である。ひめじ・いのち支え合いプラン策定当時は、本市の自殺死亡率は国や県に比べて高かったが、その後は減少傾向にあり、国や県と同水準に近づいている状況である。

(要望)

引き続き、思春期出前授業をはじめ、若年者の支援に取り組んでもらいたい。

(質問)

ひきこもり支援に関する経費はどの費目に計上しているのか。

(答弁)

社会福祉総務費中、総合福祉会館管理費に計上している。このうち、ひきこもり支援については802万4,700円を支出している。

(要望)

ひきこもりの居場所として「ぷち・た・ぷち」を開所したが、想定より利用者が多く予算が不足していると聞いている。令和5年度の予算編成に当たっては、利用者の実態に見合った予算を確保してもらいたい。

(質問)

生活保護適正実施推進事業費に約2,639万円を支出しているが、どのようなことをしているのか。

(答弁)

医療扶助の適正な執行のためのレセプトの点検や就労支援事業の委託を行うため、当該予算を執行している。

(質問)

議案第88号のうち、結核患者医療給付経費事業費については、結核患者が増えているということであるが、その要因と保健指導などを含めた具体的な対策について説明してもらいたい。

(答弁)

当該補正予算については、通常使用される結核の治療薬が効かない結核患者が発生したことにより、薬代をはじめ治療に要する経費が高額になり、医療費が不足したために増額しようとするものである。結核患者数は特に増加していない。

結核患者数はもともとそれほど多くないが、医療機関から発生届を受けた際には、患者の入院対応や服薬支援を行うとともに、感染拡大防止のため接触者の聞

き取り調査や健康診断を実施している。

(質問)

雑入で約 2 億 4,000 万円の収入未済額と約 3,300 万円の不納欠損額が計上されており、8,143 件の生活保護費返還分が主なものとすることであるが、このうちどれぐらいが返還されているのか。

(答弁)

収入未済が 8,000 件余りである。現在の収入の状況は把握できていない。

(質問)

令和 3 年度の不納欠損は何件で幾らであるのか。

(答弁)

不納欠損は 1,078 件で、3,020 万円である。主として、生活保護費を支給した後、もともと資力のある人や不正に受給していた人について返還を求めているものである。

(質問)

1,078 件の不納欠損額が 3,300 万円ということなのか。令和 2 年度の収入未済額は幾らだったのか。

(答弁)

生活保護に関わる不納欠損額については約 3,020 万円である。

(質問)

不納欠損額が約 3,300 万円で、1,078 件ということではないのか。

(答弁)

不納欠損額の 3,307 万 4,339 円のうち、生活保護返還金が 3,020 万 1,528 円である。

そのほか、障害福祉の支援費返還金が約 287 万円あるため、不納欠損額のうち生活保護返還金については約 3,020 万円であり、件数は 1,078 件ということである。

(質問)

令和 2 年度の数はいくら分らないが、令和 3 年度と大きく変わらないものと考え、8,000 件程度の収入未済があり、1,078 件が不納欠損になったとの認識でよいのか。

(答弁)

不納欠損の 1,078 件とまた収入未済の約 8,000 件は、全く別の内容である。

(質問)

令和 3 年度の収入未済額である約 2 億 4,000 万円に対して、どれぐらいが不納欠損になる見込みであるのか。言い換えれば、どれぐらいの率で収入できているのか。生活保護適正実施推進事業費に約 2,600 万円支出しているとのことであったため、確認させてもらいたい。

(答弁)

過去 5 年の現年度分と過年度分を合わせた収納率は、おおむね 4 割から 5 割程度である。不納欠損については、5 年を経過すると、消滅時効という形で欠損処理をしており、実際の収納は 4~5 割にとどまっている。また、過年度分についてはなかなか収納が進んでいない。

(要望)

生活保護を受けないような状況になれば返還も可能であるが、続けて生活保護を受けている人から返還してもらうことは難しいと思う。5 年で不納欠損にしてしまうため、事前に不正を見抜いて適正な生活保護につなげることが重要であると思われる。よろしくお願ひしたい。

(質問)

高齢者バス等優待乗車助成事業として約 3 億 9,900 万円を支出しているが、例年と同規模であるのか。コロナ禍による影響はないのか。

(答弁)

新型コロナウイルス感染症の影響により、例年より支出額は減っている。令和 2 年度もコロナ禍により約 3 億 8,000 万円と少なく、令和 3 年度も同様の状態が続いている。

(質問)

令和元年度が約 4 億 3,000 万円、令和 2 年度が約 3 億 8,000 万円であり、令和 3 年度が約 3 億 9,900 万円と前年度比で約 2,000 万円増えているが、減少傾向であるという認識でよいのか。

(答弁)

特にバスの利用が新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、利用者数が減少している。

健康福祉局終了

13時25分

【厚生委員会の意見取りまとめ】

意見取りまとめ 13時29分

(1)分科会長報告について

・正副分科会長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了 13時30分

閉会 13時30分